

予選 20 番手からの大逆転劇！ 作戦の中で 2 位表彰台をゲット



AUTOBACS SUPER GT SERIES Round.1 Okayama

April 7-8 2018

今年こそ悲願の初勝利、そしてチャンピオンを目指す——。2018年、D'station Racingにとって2年目の SUPER GT への挑戦が始まった。チームは今季に向け、エース藤井誠暢を軸に、昨年二度の表彰台をもたらしたスヴェン・ミュラーのフル参戦も決定。2018年版にアップデートされたポルシェ 911 GT3 R を投入する。

迎える4月7～8日の開幕戦は、岡山国際サーキットが舞台。オフシーズンのテストも好調で期待がかかるシーズンの幕開けだったが、岡山はどちらかというと D'station Porsche にとっては苦手とするコース。ただチャンピオンという目標に向け、開幕ダッシュを決めたいレースだ。

すでに桜の季節も過ぎ、暖かくなってから迎えた7日の予選日だったが、前日から岡山は季節外れの寒さに見舞われる。SUPER GT ではレースウィークの気温を予測したタイヤを持ち込むが、あまりの冷え込みに多くのチームがタイヤの白熱に苦しむことになる。もちろん、D'station Porsche もその例外ではなかった。7日朝の公式練習では 1分 27秒 403 というベストタイムで 17番手と苦しい順位となった。

ただ、いたずらに予選結果を追い求めることも禁物だ。午後の予選 Q1 はミュラーに託し、Q1 突破を目指す。しかし、ポルシェワークスドライバーの腕をもってしても 1分 26秒 730 という

タイムで 20番手。もう少し前の順位ならばレースでのジャンプアップも見込めるが、下位スタートはリスクも大きい。ただ、チームが笑顔を取り戻すことになったのは、予選後行われた PCCJ の決勝で、星野敏オーナーが3位表彰台を獲得したこと。レース後、パドックでは星野オーナーの誕生日パーティーも行われ、チームは「いいプレゼントを贈ろう」と決勝での逆襲を誓った。

明けて4月8日のサーキットは、午前中こそ雨が舞い、星野オーナーも苦しむレースとなってしまったが、SUPER GT の決勝が近づくと青空が顔をだし、気温も上昇。本来のタイヤの性能が発揮できるコンディションとなっていった。チームはスタートドライバーを務める藤井がハードめのタイヤをもたせつつペースを上げ、コース上がクリアになる後半まで引っ張り、ミュラーがラストパートをかける作戦を立てた。

17,700人という昨年を上回るファンが見守ったスタートから、藤井は決してタイヤをいじめることなく、そしてチャンスとあれば確実にライバルを仕留める走りを見せる。序盤からトップ争いが混戦だったこともあり、ペースはトップ集団と変わらないどころか、わずかに速い。そのなかでも藤井は逐一無線でタイヤの状態を報告。ライバルたちがピットに向かうと、さらに藤井はペースを上げ、40周目にはトップに浮上！ 首位を

争っていたマシンがストップし混乱の恐れがあったのを見計らい、43周にピットイン。ミュラーに交代した。本来はタイヤ無交換作戦も採れる可能性があったが、当初の作戦どおり、リヤタイヤのみの二輪交換を行い静止時間を稼いだ。

チームの迅速な作業にも助けられ、ピットアウトしてみればミュラーの順位は4番手。前を行く #65メルセデスは見えている。しかもペースはこちらの方がいい。ミュラーは藤井がそうしてみせたとおり、決して焦らずチャンスを待った。

レースも残りわずかという 70周目。マイクナイトコーナーから最終コーナーにかけての攻防で #65メルセデスがわずかに姿勢を乱すと、ミュラーはこれを見逃さず、3番手に浮上！ ついに表彰台圏内に入ったが、前を走る #2586MC はかなりペースが苦しそうだ。「ちょっと無線でしゃべるのを止めてくれ」と一気に集中したミュラーは、わずか2周後に一気にオーバーテイク！ そのままチェッカーを受け、チーム創設以来最高位となる2位でフィニッシュした。

作戦は見事完遂。それどころか、予想よりもいい順位となった。苦手だった岡山での2位は、チームのポテンシャルが可能にした最高のスタートダッシュと言える。次戦は、公式テストで抜群のスピードを誇り、昨年初表彰台も獲得した富士だ。悲願達成への舞台は整った。

PARTNERS



NEXUS GROUP





Satoshi Hoshino Team Principal

まさかの展開でしたね。最悪の予選から一夜明けて最高の決勝レースになったので、個人的には本当に素晴らしい誕生日プレゼントをいただいたと思っています！ 不利と言われていた岡山国際サーキットという舞台で、こうしてチーム最高位となる結果を残すことができたので、次の富士が本当に楽しみです。ただD'station Racingとしての目標はあくまでも優勝とシリーズチャンピオンです。富士ではぜひ最高の結果を残して、ぜひそのチャンピオンに向けて有利にシーズンを運んでいきたいです。皆さん応援ありがとうございました。



Kazuhiro Sasaki General Manager

予選では気温に苦しみ、20番グリッドからのスタートになってしまったので、抜きづらい岡山国際サーキットでは僕たちのポルシェは「どうなってしまうかな……」とは思っていましたが、藤井選手もスヴェン選手も本当に素晴らしい走りを見せてくれました。次からのリクエストは「頼むから予選Q1通ってくれ」ですね(笑)。予選が良ければ優勝も狙えたわけですから。でも次の富士スピードウェイでのレースはD'station Porscheにとって得意なコースなのは間違いないので、大いに期待したいと思っています。



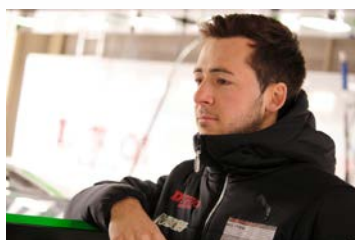
Toshiaki Takeda Team Director

今日はようやく予想していたコンディションになってくれたので、こういう作戦を採ることができました。ある意味ホッとしています(笑)。予選は想定外の気候もあり、周囲のタイヤ選択も分かっていたんです。だからこそ今日、こういう展開になるのは読んでいました。でもポイント獲得を目指そう……と思っていただけに、表彰台は予想以上でしたね。藤井選手もベテランらしい走りを、スヴェン選手も我慢して抜いてくるクレーバーな戦いを見せてくれましたし、ドライバーの力だと思います。富士はこれ以上にチャンスがあるはずなので、期待しています。



Tomonobu Fujii Driver

岡山は相性は良くなかったですが、レースに集中したタイヤ選択をしていました。だからスヴェン選手が予選で苦戦したのだと思います。18年仕様のセットをテストでやってきてクルマには自信がありましたし、タイヤももつと思っていたので、フロントタイヤと燃費をマネジメントし、トップとの差を気にしつつ、途中でいけると確信しました。最終的に4番手でコースに復帰でき、スヴェン選手が2位まで上げてくれた。大変なオフにチームが体制を作ってくれたおかげですし、ヨコハマさんもいいタイヤを用意してくれました。次の富士はきっちり勝ちたいですね。



Sven Müller Driver

予選ではコンディションが悪く、本当にガッカリした。でもテストも良かったし、慌てることなくレースに集中していたんだ。藤井選手が後方からのグリッドで難しい序盤だったのに、あの位置までジャンプアップしてくれて、素晴らしいレースを展開してくれたね。ピット作業後、藤井選手がフロントタイヤを残してくれたおかげで#65メルセデスと戦うことができた。バトルはお互いスペースを残して、フェアなレースだったよ。だからこそ僕はSUPER GTが好きなんだ。最後に抜けて、無交換のマシンも抜けて2位になった。過去最高位だし、本当に素晴らしい気分だよ！

Official Website : <http://dstation-racing.jp>

Facebook : <http://fb.me/DstationRacing>

PARTNERS



NEXUS GROUP

